

村田さん

鈴木聡

【登場人物】

小宮山一郎

岡根谷洋子

蔵田英二

村田正彦

深尾雪子

美しいピアノの調べ（たとえば「ショパンの別れの曲」）。
舞台上に明かり入るとそこはただいま主の通夜をとりおこっている村田家の門前。
受付席に岡根谷洋子（31）、薪をくべたブリキ缶に手をかざす蔵田英二（28）は、
荷物預かりのヒモがついた番号札を手に持っている。
いずれも東京商事総務課の社員。喪服にコートを着込んでいる。
12月24日、午後7時35分ごろ。寒い。

蔵田　しかし来ないなあ、弔問客。

岡根谷　ほんとね。

蔵田　早くしないとお通夜終わっちゃうよ。何人来ましたいままで。

岡根谷　（香典を数えて）インディアンの・・6人ね。そのうち4人は町内会。うちの
会社の人は2人。つめたいもんよね、会社なんて。

蔵田　あの、岡根谷さん、

岡根谷　なに、蔵田君。

蔵田　なんですかインディアンって

岡根谷　ああ、数の数え方よ。だるまさんがころんだと一緒に。やんなかった？

蔵田　いや、俺の地方では。

岡根谷　そう。全国区じゃないんだ。

蔵田　つづき、なんて言うんですか

岡根谷　インディアンのふんどし。ね、おかしいでしょ。ふんどししてるインディアンの
像してみてくださいよ。

蔵田　ああ

岡根谷　こんな工夫でもしないとやってられないのよ総務なんて。香典の金勘定させ

られるのしょっちゅうでしょ。ちよつとでも日常業務楽しくしないとね。

蔵田 さすがベテランだな。

岡根谷 このお通夜の入りの悪さもあたしには見えてたわね。クリスマスイブの日曜日。おまけに当の村田さんは典型的な窓際社員。仕事はできない、人望はない、たらい回しにされたあげくとうとう50でヒラのまま、気管支ぜんそくという話題性のない病気でこの世を去ったケースよ。一番入りのいいお通夜が武道館だとしたら、これはせいぜい赤羽根福祉会館といったところね。

蔵田 よく思いつきますね、そういうたとえ。

岡根谷 だから無理やり思いついてるのよ。これでも31の嫁入り前よ。今夜はクリスマスイブよ。何が悲しくて人のお通夜の受付なんて・・・

蔵田 もうすぐ終わりますって。そしたら飲みに行きましょうよ、六本木あたりでパーティと

岡根谷 パーツと喪服で？

蔵田 そののつぼ八でもいいですけど。

上手からコートを手に喪服の小宮山一郎登場。

小宮山 ご苦労さま

蔵田 あ、ご苦労さまです、課長も。

小宮山 君たちもいまのうちにお焼香してきたまえ。受付は私がやるから。

岡根谷 あ、じゃあ、そうさせていただけようか蔵田君。

蔵田 はい

岡根谷、受付を立ち、上手へ。小宮山、受付へ向かおうとするが、茫然と立ち止まる。上手へ行きかけた二人、気になる。

岡根谷 どうかなすったんですか課長

小宮山 え

蔵田 いや、なんか凍りついたように立ち止まっちゃってるから

小宮山 ああ

岡根谷 そういえば顔色も悪いですよ。お風邪でもひいたんじゃないや・

蔵田 あ、だったら受付は僕が

小宮山 いや、ちがうんだ。なんというか、その、シビレた。

岡根谷 え？

小宮山 おまけにかじかんじゃってさ。動かないの、足。

岡根谷 ああ

小宮山 蔵田君、

蔵田 はい

小宮山 指パッチンしてくれる？

蔵田 足ですか

小宮山 そうそう、足。私、指パッチンでたいい直るんだ。

蔵田 じゃ、いきます

小宮山 うん、優しくね

蔵田 パッチン

小宮山 ああっ

蔵田 あ、すいません、強すぎました？

小宮山 いやいいんだいいんだ、一度は通らなきゃいけない道だから。

ああ・・・(と呻きながら小刻みに歩いて受付席に座る)

岡根谷 でもどうして。お焼香しただけですよね課長。

蔵田 そんなシビレきつちゃうまでお焼香してたんですか

小宮山 君たちも覚悟していきたまえよ。次の焼香客がないお通夜というものは実に辛い。拝んでるうちに寂しげなご遺族の気持ちひしひしと伝わってくるんだよ。次の客が来るまで次の客が来るまでと拝んでるうちにこうなってしまう。立ち上がるときも大変だったよ。坊主の頭にしがみつきそうになって。

岡根谷 もう少しあとにしようかお焼香。

蔵田 そうですね、次の人がくるまで。

小宮山 つめたいもんだな会社なんて。いくらクリスマスイブだからって寂しすぎるよこのお通夜は。私のときもこんなだったら、女房どう思うだろう。「淋しい人生だったのねあなた、そんなあなたに仕えてきた私も淋しい女だったのね」

岡根谷 なに言ってるんですか課長。課長と村田さんじゃ、全然会社での立場も違うわけだし

蔵田 そうですよ、僕らがジャンジャン人集めますから。けっこう僕人脈あるんです。JALとかANAとか

岡根谷 合コンじゃないんだから君

蔵田 あ、すいません

小宮山、そんなに違うかね岡根谷君

岡根谷 はい？

小宮山 いや君いま言ったじゃないか、私と村田さんと同じや全然違うって

岡根谷 そりや全然違いますよ、立場も人気も人望も。ねえ

蔵田 ええ

小宮山 人気あるのか私

岡根谷 やだなに言ってるんですか課長。バレンタインにゴデイバのチョコあげたじゃないですかあ、義理じゃないですよおアレ

小宮山 またまたまた

蔵田 ゴデイバか、すげえ

小宮山 いや今年は7つ来たんだ、君のも入れて。

岡根谷 でしょう

小宮山 仕方ないからデパートに買いに行ったよ、ホワイトデイのパンツ。ククク、7枚

岡根谷 やるう、課長。

蔵田 野球大会だってほら、課長がリリーフに出てこないと試合しまんないし

小宮山 そうだよなあ、東京商事の江夏。

岡根谷 キャンプ大会のときだってそうじゃない。課長のびっくりカレーがないと、盛り上がらないもの。

蔵田 あのカレーほんとにびっくりだね、納豆やタクアンはいつて

小宮山 言っている？

蔵田 どうぞ

小宮山 東京商事の道場六三郎。ははは

二人も調子を合わせて笑う。

岡根谷 でもほんと冗談じゃなくて人望ありますよ課長は

蔵田 そうですよ、部下とのコミュニケーションもバッチリだし。

小宮山 じゃ・・もつと人来るかな、私のお通夜。

その意外なほど、シリアスな様子に、二人、顔を見合わせる。

蔵田 どうしたんですか、マジになっちゃって。

小宮山 いや、なんだか他人事に思えなくてね。この年になると自分の葬式のことを想像してみたりするんだ。なんだか葬式って、人生の結論みたいなものじゃないか。どれだけ人が集まるか、どれだけ悲しんでくれるか。それで自分の人生が計られるような気がしてさ。

ブリキ缶の薪がはぜる音。蔵田、岡根谷、黙って火に手をかざす。
上手から故人・村田正一の息子、正彦登場。喪服姿である。

正彦 ご苦労様です。長男の正彦です。

小宮山 あ、私と同じ総務の岡根谷君と蔵田君です

岡根谷・蔵田 このたびはどうも

正彦 寒い中をほんとうにすみません。父とはあまり面識もなかったでしょうに

蔵田 いえ、これが僕らの仕事ですから

岡根谷、その言葉の無神経さをなじるように蔵田をたたく。

正彦 いやいいんです。父の会社での立場のようなものが今夜よくわかりました。

小宮山 あ、どうかそんなことをおっしゃらないでください、正彦さん。

今日は日曜日だし、我々の力不足で連絡がよく行き渡らなかったのです。それに天気予報は大雪です。帰りの心配をして皆さん、出控えたのでしょうか。明日の葬儀にはきつとたくさんお集まりになると思います。

正彦 ありがとうございます。そう言っていたら、母もずいぶん慰められます。

岡根谷 お母さま、どうかなさいました？

正彦 トイレに行ったまま戻らないので様子を見に行っただけです。そしたら、台所の片隅で泣いていました。

蔵田 それは奥様として当然でしょう、なにせ急だったし

正彦 いえ、そうじゃなくしてお通夜が淋しいと言って泣いているんです。人生を芝居にたとえるなら、あの人の人生はずいぶん登場人物の少ない淋しいお芝居だったのね、って。忠臣蔵とか、勧進帳とか、母は賑やかな芝居が好きですから。

小宮山 そうですか

正彦 親戚の連中も困り果てまして、最初は25年も勤めたのに冷たい会社だと悪口を・・・あ、すみません

小宮山 いえ

正彦 でも結局は親父自身の問題ではないかということに落ち着きました。真面目は取柄ですが、無趣味で、人付き合いが悪くて、息子の僕から見ても、まったく面白味のない人間でした。僕らが知ってる親父が、もしも親父のすべてだったら、ほんとうに、慕う人もない、つまらない人生だったと思います。

小宮山 いやそんなこといっちゃいけないな、きっと我々の知らないところで村田さんには村田さんの

正彦 (小宮山の台詞をさえぎって努めて明るく) 道楽者の叔父にいたってはこんなことをいいました。いっそテレビドラマみたいに若い愛人が競馬の借金取りが現れて、ちやぶ台をひっくり返すような大騒ぎになればいいって。僕もかえってそのほうが・・

蔵田 そんなこと絶対ないですよ

岡根谷、蔵田をたたく。

正彦 馬鹿なことをいいました。あと15分ほどですから、最後までよろしくお願
いします。

正彦、目礼して、上手へ退場。

小宮山 どうする？なんだか気の毒じゃないか

岡根谷 そりやなんとかしてあげたいけど

小宮山 君が実は愛人だったということにして、遺影にとりすがるといのはどうかね。

岡根谷 馬鹿なこと言わないでください。そんな人がいるわけないでしょう、あの村田さんに。

と、さきほどからずっと下手方向を見ていた蔵田が

蔵田 そうでもないみたいですよ。

岡根谷 なによ

蔵田 あれ、もしかして愛人じゃないかな。
喪服の女の人がかっちに来ます。スラッとした若い美女。

小宮山 嘘つけ

蔵田 ほんとですって

小宮山 そんなわけないよ、あの村田さんに美女の知り合いなんか

岡根谷 あ、ほんとだほんとだほんとだ

小宮山、あわてて蔵田たちの側へ。

小宮山 会社の子かね

蔵田 いや、見たことないな。

岡根谷 絶対ちがうわ。保証する。あんな目立つ子がいたらあたし一度は苛めてるもの。

小宮山 しかしそんなことがあったたまるか。おい、この先で別のお通夜やってなかったか

岡根谷 現実を直視してください課長。この先は行き止まりです。

小宮山 じゃあ道に迷ったんだ。ほかのお通夜にいくつもりで線香の匂いにひかれて
ついついこっち来ちゃったとか

岡根谷 犬じゃないんだから課長

蔵田 あ、電柱に張った村田家の張り紙を確認しました。

岡根谷 やっぱりこのお通夜よ。

小宮山 いや、俺はまだ信じんぞ。きっと親戚の娘だ。

蔵田 もう全員そろってます。

小宮山　じゃあコンパニオンだ。通夜ぶるまいのコンパニオン。

蔵田　そんな商売ありませんて

岡根谷　なに動揺してんですか課長

小宮山　そりや動揺しちゃうさ。だってもしも村田さんにあんな愛人がいたら、ああ俺の人生のほうがやっぱり少しはマシかなと思っていた俺の気持ちがガラガラと音を立てて崩れ落ちるじゃないか。

岡根谷　そんなこと思ってたんですか課長

蔵田　あ、こっち見ましたよ彼女

小宮山　位置につけ！

岡根谷・蔵田　はいっ

小宮山、受付席へ。蔵田、岡根谷、その横に襟を正して立つ。

音楽。「別れの曲」。下手から喪服にコートを羽織った深尾雪子登場。

3人を見つけると立ち止まり深々と礼をする。3人も深々と礼をする。

受付に近づき、ハンドバックから香典を取り出し、小宮山に渡す。

そしてすぐに上手へ行くこうとする。

小宮山　あの失礼

雪子　はい

小宮山　ご氏名ご住所をご記帳願います。

雪子　書かなくちゃいけませんか？

小宮山　は？

雪子　いえ、すみません、書きます。

雪子、記帳する。3人、そつと目を合わせる・・・愛人に間違いない！・・・
雪子、記帳を終え、上手へ向かう。

岡根谷 あ、コートを。

雪子 すみません。

雪子がコートを脱ぐのを岡根谷手伝う。蔵田、荷物預かりの番号札を渡す。
雪子、軽く目礼し上手へ退場。3人、茫然と見送る。音楽F.O。薪の燃える音。
岡根谷が受付に駆け寄り記帳を見る。

岡根谷 深尾雪子。渋谷区南平台ビエントーレ渋谷301号

小宮山 記帳を躊躇した・・・間違いない。

岡根谷 ビエントーレっていうのもいかにも愛人よねえ

蔵田 見直しちゃったな、村田さん。なんかこういうことがあると村田さんの人生
がイツキに輝いて見えてきませんか。あんな面白味のない顔をしてその裏側
であんなモデルみたいな愛人と

小宮山 なんだとモデル

蔵田 そうだ彼女きつとモデルだ、モデルの愛人とビエントーレでもう一つの愛の
人生を送っていたんです。

小宮山 畜生っ、裏切ったな村田さん

岡根谷 だけどそんなお金、どうしてあったのかしら。

蔵田 きつと株ですよ。銀行に隠し預金がたくさんありました。実は僕、山の手
線の中で村田さんを見かけたことがありますね、その時村田さん、日経の
株式欄を穴の開くほど読んでいました。

岡根谷 そういえばいいスーツ着てたのよね村田さん、あれきつと銀座の老舗のオー
ダーメイドだと思っ

蔵田 いくら窓際社員でもね、

岡根谷 うん

蔵田 愛とお金と心のゆとりがあったんで村田さんには

岡根谷 そうそう

蔵田 趣味も豊かだったにちがいません。ビエントーレにはきつと油絵の道具が一式ありますよ

岡根谷 あとアールヌーボーのランプとかね

蔵田 湘南のヨットハーバーにはたぶんクルーザーが

岡根谷 あ、箱根の森美術館に村田さんが彫った彫刻があるかもしれない

小宮山 やめたまえ

蔵田 やられました

岡根谷 やられたわね

蔵田 仲間はずれにされたふりをしながら内心僕らを見下ろしてたんだ。草野球やびつくりカレーに喜んでる僕らを

小宮山 やめたまえー

蔵田 あ・・すみません

小宮山 深尾雪子という、背の高い女性が通夜に来た。それだけのことだ。

岡根谷 でもさつき課長、間違いないって

小宮山 いやまだわからん。取引先の受付嬢かもしれん。何かの拍子に村田さんが

一度コーヒーをおごった。義理堅くも彼女は通夜にやってきた。だがいざ来てみると差し出がましいことをしたという思いにとらわれる。だから記帳をためらった。ただそういうことかもしれないのだ。

薪が燃える音。岡根谷、蔵田、所在なくブリキ缶に手をかざす。

小宮山 あ、なんか私いやな男かな。村田さんの不幸な人生、望んでるみたいで。

岡根谷 ちよつと

蔵田 ちよつと

小宮山 そうだよな、ごめん。

上手から正彦が走りこんで受付へ。記帳を見る。

正彦 深尾雪子・・会社の人ですか。

小宮山 いえ、初めてお会いした方ですが。

正彦 じゃ、やっぱりそうだ。やった・・やった・・！

蔵田 どうかしたんですか、

正彦 親父はなかなかのもんですよ。皆さんも見くびっちゃいけません。ただの窓際の、役立たずの、ハゲチャビンじゃなかったんです。

小宮山 いや、ハゲチャビンとまでは、

岡根谷 彼女がなんか言ったの？

正彦 焼香が終わってもじつとすわったまま動かないんです。親父の遺影をいつまでもいつまでも見続けているんです。そしてついに、僕は見逃すまいとちゃんと見てたんですが、彼女の瞳からじわつと涙があふれ出しました。涙はポロポロと頬をこぼれ落ちます。でも彼女はハンカチを握りしめたまま拭おうともしません。そのうち、嗚咽が聞こえはじめました。このへんではもう親

戚中が息を殺しています、ご住職も耳を澄ませてお経の声を低くしました、そしてとうとう彼女は、ワツと声をあげて畳の上に泣き伏したんです。

蔵田 間違いないですよ。

岡根谷 本物だったわね、ビエントーレ。

正彦 それっきり彼女は何も言いません。母も親戚も何も聞こうとしません。聞きたいことはたくさんあるのですが、せっかく来てくれた宝物を壊すような気持ちが出て、躊躇するのです。よかったです。あんなに本気で泣いてくれる人が親父にいて。もしも隠し子がいたり、彼女のマンションを買った借金が残ってたり、何があっても親父を許してやりたい気分です。そこに、僕らの知らない、もう一つの、親父の人生があったのなら。

音楽「別れの曲」。上手から雪子登場。正彦に目礼し、下手へ退場しようとする。

小宮山 あの、すみません。

雪子、下手に立ち止まる。

小宮山 もしよろしかったら、村田さんのご交際について、私どもにお話願えないでしょうか。

岡根谷 課長

小宮山 なにも好奇心と言うわけではありません。私どもは村田さんの思い出をもっとたくさん持ちたいのです。息子さんも気にかけていらっしゃる。どうかひとつ、差し障りのない範囲で結構ですから。

雪子、正彦のほうへ体を向け

雪子 深尾雪子と申します。

正彦 長男です。正彦といいます。

雪子 お父様には大変お世話になりました。

正彦 よかったら教えてください。父とはどういう

雪子 ・・ええ

正彦 つまり、その、どういうご関係だったのでしょうか

雪子 ・・はい（と言ったきり答ええない）

岡根谷 あの、ためらうお気持ちはわかるけど、だいじょぶよ、あたしたち心の準備できてるし

雪子 困ったわ

正彦 え

雪子 （小宮山に）やっぱり言わなきゃだめですか

小宮山 いえ別にだめということは

岡根谷 だめですよ、言っていただかなきゃやっぱり

小宮山 そうかな

岡根谷 そうよ、これだけみんなの気持ちひっぱったんだしこのままじゃ正彦さんだつて

正彦 いや僕はいいですよ、そういうことならこちらの気持ちを尊重して

岡根谷 だめよあなたがそういうことじゃ、長男なんだからしっかりしてよ

蔵田 なんか岡根谷さん親戚のおばさんみたいですよ

岡根谷 悪いの？こういうことがあると女はみんな親戚のおばさんになるのよ

小宮山 すいません深尾さん

岡根谷 課長が謝らなくてもいいです

小宮山 だって君、無理やり口こじあげようって感じじゃないか、世の中にはそっとしておいたほうがいいこともあるんだし

岡根谷 なによ課長、自分が言い出したんでしょ

小宮山 いやいま不意に村田さんの気持ちになってみたんだよ、そしたらやっぱりせっかく隠してた愛人のことを人にとやかく

雪子 いえ私、愛人ということでは・・

4人 愛人じゃないんですか!?

雪子 あ、そう面と向かって聞かれると、

岡根谷 これはだいじなことなのよ、あなたが愛人かただの知り合いかで、村田さんの人生の重みがちがってくるの

正彦 やっぱりだめだ、親父はただのハゲチャビンだったんだ

蔵田 いやまだそうと決まったわけでは

雪子 とてもお話しづらいんです、なんだか信じていただけじゃないんじゃないかと思つて

小宮山 信じます、あなたがおっしゃることはなんでも。我々が思ってる村田さんのイメージとは全然違う村田さんの話でも

蔵田 どこでお知り合いになったんですか村田さんと

雪子 電車の中です。

正彦 電車？

雪子 ええ、JRです、朝の。

小宮山 いつのことですか、それは

雪子 8年前です。

岡根谷 8年前？

雪子 ええ、私まだ女子高生でした。

蔵田 そこで村田さんどうやって

雪子 あの、なんていうか、痴漢

正彦 親父が痴漢したんですか

雪子 いえ、つかまえていただいたんです。飛びかかって大声出して

正彦 あの親父が

雪子 ご自分でもびっくりされてひっくり返っちゃったんです。それでそのことの方が大騒ぎになって乗客の方が医務室に。痴漢の人も責任感じて一緒に運んでくれました。

小宮山 (笑う)

正彦 それがきっかけということですね。

雪子 ええ、それで私も責任感じて、お名刺いただいて、そのあとまた改めてお会いしたんです渋谷のマクドナルドで

正彦 はい

雪子 私がごちそうするつもりだったんですけど、村田さんが払ってくれて、それから時々お会いするようになったんです

蔵田 マックですか

雪子 ロッテリアだったこともあります。デニーズだったことも。

正彦 そういう時、なに話すんですか親父

雪子 なんにも。だいたい私が喋ります。学校のこととか、好きになった男の子のこととか。でもそのうち喋ることがなくなって二人で窓の景色を見ています。

小宮山 気づまりじゃありませんでした？

雪子 最初はちよっと。でも慣れました。かえってそのほうが自然だと思ってしまうようになりました。学校の友達といるときは、無理して楽しく喋ってるみたいに思っていました。

正彦 ずっとそういうおつきあいだったんですか、つまり、マクドナルドとかロッテリアとか、

雪子 卒業して、一人暮らしを始めたんです。それからは、だいたいそっちのほう
へ

岡根谷 ビエントーレね

雪子 あ、その前です、オリエントーレ初台

蔵田 トーレがお好きなんですね

雪子 高級そうですね

正彦 そこではどういうおつきあいだったんですか、トーレでは

雪子 やっぱりおんなじ感じですが、私の休みは火曜日だったので、会社を抜けて
2時ごろいらして夕方まで

岡根谷 それでも黙って？

雪子 ええ

正彦 それ以上のことは・・・つまり男と女のようなことは

雪子 ありません

蔵田 じゃいったい何してたんです、マンションの部屋で、何時間も

雪子 いっしょに・・・居たんです。

村上春樹や、山田詠美や、私の本棚の本を村田さんは読みました。
渡辺淳一や、藤沢周平や、村田さんが持つてる本を私は読みました。
感想を言い合ったりもしません。ただ黙って本を読んでいたんです。
それだけで、充分だったんです。

薪が燃える音。

小宮山 ・・すみません。野暮な質問を許してください。

雪子 はい

小宮山 ほんとうに、それ以上のことはなかったんでしょうか。つまりその、現実に
起こったということでもなくとも、気持ちの上のことでも、

雪子 ・・4年目のクリスマススイブに雪が降ったんです。その日、村田さんは
会社が終わってからいらつしやいました。珍しく、外へ出ようかとおつしやつ
て近くの公園にいきました。積もり始めた雪を払いのけて二人でベンチに座
りました。黙ったまま、長い時間が過ぎました。私はいつもと違う村田さん
を感じました。たぶん村田さんは私を抱き寄せようとしたのだと思います。
私はそれでもいいと思いました。むしろ、私のほうが強く望んでいたかもし
れません。黙ったまま、二人の間の気持ちが高いところへのぼっていきまし
た。そして一番高いところへ上ったと感じたとき、村田さんは、大きく口を
あけて顔を空へ向けたのです。村田さんの口へ真つ白な雪が降りました。
わけもわからず私もそれを真似しました。冷たい白いものが私の中で溶けま
した。・・・それつきりです。何かがあつたとしたら、その時のことです。

薪の燃える音。

蔵田 ……愛人なのかな、それ…

雪子 もしも、その字の通り、愛する人という意味なら、私は正真正銘、村田さんの愛人でした。

薪の燃える音。雪子、正彦に

雪子 さきほどは取り乱して申しわけありませんでした。皆様によりしくお伝えく
ださい。

音楽。「別れの曲」。雪子、目礼し、下手へ退場。正彦、深々と礼をして見送る。
3人と目が合い、

正彦 ありがとうございます。いい通夜になりました。

正彦、上手へ退場。残った、3人、ややきまり悪そうに、さりげない日常の動きに
戻ろうとする。

岡根谷 あ、そうだ、あたしたち、お焼香、

蔵田 そうですね、そろそろお通夜終わっちゃうし

岡根谷 あら、また降ってきたわね、雪。課長も中はいりませんか？

小宮山 いや、私まだ受付。あと5分あるし

岡根谷 じゃ、よろしくお願いします。

蔵田 俺のお通夜

岡根谷 え？

蔵田 いや、いまふと思ったんですよ。俺のお通夜にも、あれほど俺のことを思っ
てくれる人、来てくれるかな。

岡根谷　何いってんのよ。あんた先長いんだから、これからゆっくり見つけなさい。

蔵田　　そうですね

蔵田、上手へ退場。

岡根谷、いきかけるが、小宮山のことが気にかかる。自分のことも、少し。
その気持ちを振り払うように

岡根谷　先、いってますね

小宮山　　うん

岡根谷、上手に退場。音楽UP。雪の降る通夜の受付に小宮山が一人残る。
口を大きく開け、雪空を仰ぎ、降りしきる雪を口で受け止める。溶暗。